みょうこうケアフォーラム通信

平成２９年度　第１回　みょうこうケアフォーラムを開催しました！

■ 日　時：平成２９年６月１７日（土）１３時３０分から１６時３０分
■ 会　場：新井ふれあい会館　ふれあいホール
■ 参加者：１０１名（介護ネットワーク事業所、医療機関、薬局、福祉用具事業所等）
■ 内　容：【第１部】取り組み事例紹介
【第２部】講演
「住み慣れた地域で人生の最期を自分らしく生きること」を支えるために
～ナラティブホームが目指すもの～
講師　ものがたり診療所　所長　佐藤　伸彦先生

司会は実行委員会の古川さん

みょうこうケアフォーラムでは、様々な課題について語り合い、目標を共有し、妙高市民が住み慣れた地域で安心して生活が送れることを目指しています。

実行委員会の吉村さんから、これまでの取り組みについて紹介していただきました。

今年度も引き続き、「～ご本人が望む生活を実現するために～
意思決定支援について、私たちができること・するべきこと」 をテーマに取り組んでいきます

【第1部】 取り組み事例紹介

Aさん：息子さんがある時を境に自分の役割を自覚し、サービスについて一緒に考えることができるようになったことで状況が大きく変わっていった事例。

腑におちる　　あきらめない

さくらメディカル　永田さん
さくらメディカル　高崎さん
こぶしリハビリセンター　榎本さん

■ 予後予測をたて、改善に向けたイメージを本人、家族、専門職で共有する。
■ 本人、家族の意識を変えていく＝意思決定を支援することも大切。
■ 本人、家族の意思（意向）を尊重することが必ずしも意思決定支援ではない。
■ 専門職の細やかな連携を図る（歯車を合わせる）ことで、状態の改善につながる。

Bさん：家に帰りたい、というご本人の希望があり、老人保健施設から在宅へ復帰された事例。

新井愛広苑　山本さん
新井愛広苑　猪又さん
さくらメディカル　横山さん

■ その人の「ものがたり」を知り、意欲を引き出す支援。

「安心・安全」意識型パターン　のプランから

意欲を引き出すその人らしさ全面パターン　へ

【第2部】 講演

講師は、佐藤伸彦先生。
一人ひとりが持つかけがえのない「**ものがたり**」を大切した関わりに、こころが洗われ、涙があふれました。

- 今の世の中には、「生きづらさ」「死にづらさ」がある。
- だんだん弱りの人生80年では、老後の「生」の恐怖がある。「人の迷惑になりたくない」
- どこで、誰と、どのようにして、最期をむかえるのか。
  「やり残した事　言い残した事　食べ残した物は？」
- 最後の最期まで生きる「生」を支えるのが私たちの仕事。
  そのためには、多職種の連携がないと成り立たない。

命といのちのバランスが大事

命：生命体としての　命

いのち：ものがたられる　いのち

意思決定支援は**関係性**の中にある

物語的理解（腑におちる）

信頼関係をつくるために、自分の専門の知識・技術をみがいて欲しい。
あなたのことを私は何とかしてあげたいのだという姿勢と態度をきちんと持つこと。
身をもって人と接することでしか伝えられないこと、伝わらないことがある。
その人の背景に思いをはせると理解できるものがある。

～　アンケートから　～

〇関係性の作り方と重要性について感じ、最期に至るまでの物語について関わる責任を感じました。
〇その人のものがたりの一番大事な最期の部分に関わっていることを改めて感じ、身の引き締まる思いがしました。
〇知識と技術を更に身につけることと同時に、関係性の大切さを再認識し、仕事をしていこうと思います。
〇命といのち。さまざまな事情の間で悩みながらの日々でした。原点にかえってがんばりたいと思いました。
〇どうしても日々の忙しさの中で、事務的、機械的になりがちでしたが、もっと良い関係性を築いてその人らしい生活をマネジメントできるようになれたらと思います。
〇命といのちのバランスをとる大切さ。日頃の自分の仕事を振り返って、とても考えさせられる時間でした。
〇笑顔のある「いのち」と関わっていけるような人になりたいと思いました。
〇その人のものがたりを理解することを大切に支援していきたい。

関わりの中で、どこか腑におちない時には、うしろに「ものがたり」がかくれている時。
2つの事例と先生の話がつながり、ものがたりを理解する（腑におちる）ということが良く分かりました。

まとめは実行委員会の揚石先生

今年度もみょうこうケアフォーラムは、年3回を予定しています。第2回の詳細は、後日改めてご案内します。